

平成25年（2013年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○発表中の火山現象に関する警報等

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）
----------------------------	----------

○ 2013年の活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～5）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。8月7～9日に実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で噴気温度が100℃以上の高温状態が継続していました。9月13日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、噴気の様相や地表面温度分布¹⁾に特段の変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。



図 1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2013年12月）

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情複、第492号）。



図 2 大雪山 写真及び赤外熱映像の撮影方向



2013 年 9 月 13 日 国土交通省北海道開発局の協力による

図 3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口の状況（北西側上空（図 2-①方向）から撮影）

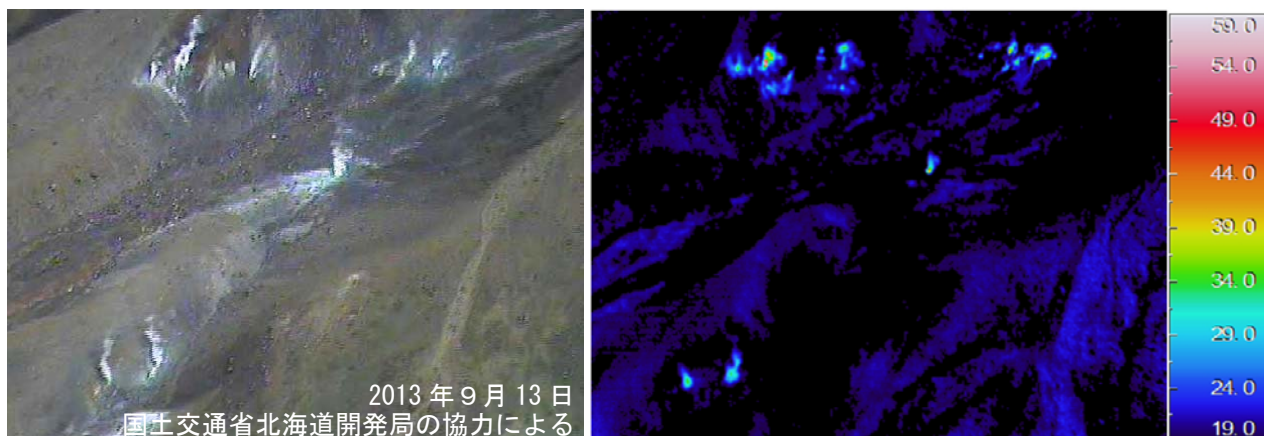


図 4 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
（南西側上空（図 2-②方向）から撮影）



図 5 大雪山 西側から見た旭岳の状況（7月25日、忠別湖東遠望カメラによる）

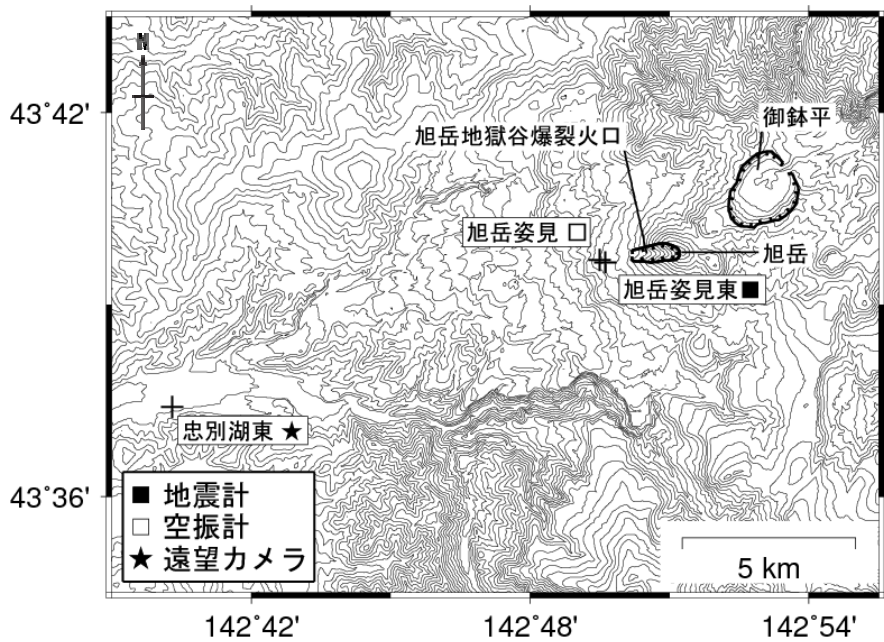


図 6 大雪山 観測点配置図
＋印は観測点の位置を示します

気象庁観測点一覧表 大雪山（緯度・経度は世界測地系）
記号は図 6 に対応しています。

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日
			緯度(度分)	経度(度分)	標高 (m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1607	0	2010 年 9 月 1 日
□	空振計	旭岳姿見	43 39.7	142 49.5	1592	7	2010 年 9 月 1 日
★	遠望カメラ	忠別湖東	43 37.4	142 40.3	430	13	2010 年 4 月 1 日